

1. 那覇市の街路樹の現況と管理方針

(1)街路樹の現況と特徴

①街路樹の役割

那覇市の管理する市道に街路樹が植栽されるようになったのは、昭和 47 年の本土復帰以降であり、国道や県道の整備とならんで市道の整備も行われてきた。

かつての那覇市は、緑したたる街並みであったといわれるが、それが大戦によってすべて喪失したため、現在は「亜熱帯庭園都市」をまちづくりのテーマに掲げ様々な緑化を推進している。また、景観法のもとに策定された那覇市景観計画が平成 24 年に条例化・施行され、本計画において市の全域が景観計画区域に定められている。美しい街なみ景観を形成するためには街路樹が極めて重要な役割を果たす。このため、那覇市は公共施設の緑化とともに、街路樹を重要な緑化と位置づけ、積極的に緑化の推進に努めているところである。

観光立県を目指す沖縄県の中で、県都である那覇市は観光の玄関口としての役割を果たしていることから、街路樹は沖縄観光をイメージづける重要な観光資源となっているだけでなく、市民と自然とのふれあいの機会をつくり、快適で美しい街並み景観を創出するとともに、良好な生活環境を支える役割をも果たしている。



□モノレール軌道下を飾る街路樹
(泉崎松尾線)



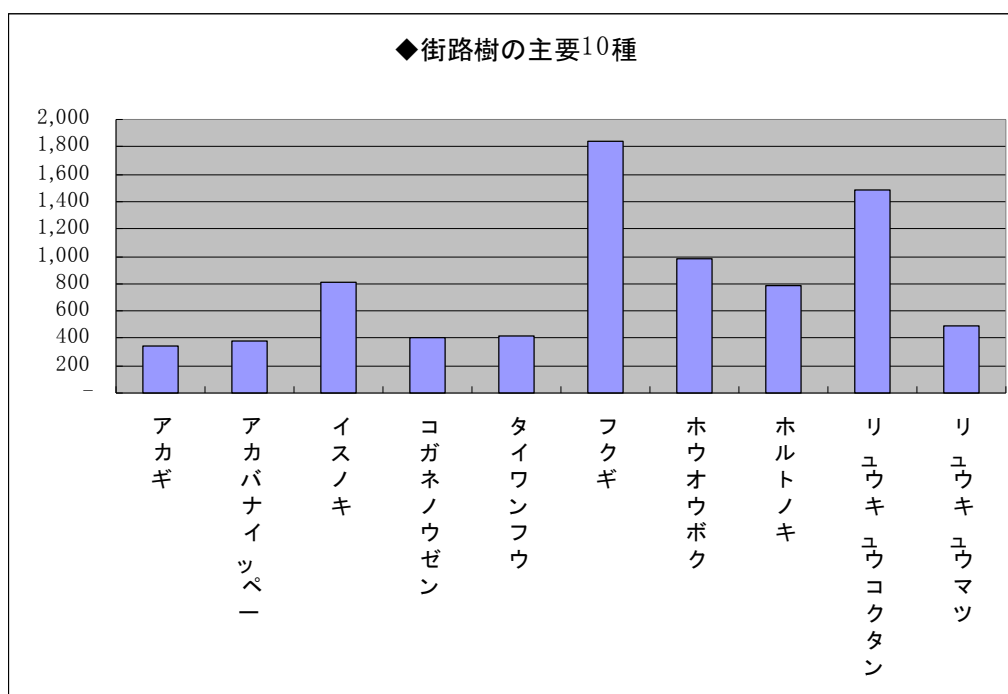
□緑陰豊かな街路樹
(真嘉比山川線)

②街路樹の樹種と数量

那覇市内の道路は、国道5路線、県道22路線が骨格となり、市道は国道や県道を繋ぎながら街区が形成されている。市道は約1,900路線あり、そのうちの約260路線に街路樹が植栽され、その総本数は約13,000本である。

植栽樹種には63種が用いられており、最も多いのはフクギ(約1,800本)、次いで多いのはリュウキュウコクタン(約1,500本)、ハウオウボク(約980本)、イスノキ(約800本)、ホルトノキ(約790本)、リュウキュウマツ(約490本)の順である。

主要な10種類は下図のとおり。



□那覇市の主要な街路樹(10種)

樹種名	数量	備考
アカギ	349	
アカバナイッペー	377	花木
イスノキ	804	
コガネノウゼン	408	花木
タイワnfウ	417	
フクギ	1,838	
ハウオウボク	977	花木
ホルトノキ	788	
リュウキュウコクタン	1,481	
リュウキュウマツ	489	

③那覇市の街路樹の特徴

那覇市の街路樹の特徴として以下のようなことがあげられる。

○数多い植栽樹種

亜熱帯気候の沖縄には、沖縄在来の樹木、いわゆる在来種をはじめとして、海外の熱帯地域から導入された外来種が在来種とともに緑化に利用されている。現在、那覇市道の街路樹の63種を在来種と外来種の割合からみると、在来種は25種にすぎず半数以上の38が外来種である。また、外来種の中の16種類は熱帯花木である。これからも分かるように、みどり豊かで、そのうえ花で飾られた美しい街路づくりを目指して海外から持ち込んだ樹種も含めて多種の街路樹が植栽されてきた。

○緑陰豊かな街路樹が多い

那覇市は密集市街地であり、そのうえ高層の建物が集積していることから風環境には恵まれた面があり、街路樹にはアカギ、イスノキ、ガジュマルといった郷土樹種による緑陰樹、タイワンフウ、フィカスハワイ、ハウオウボクといった熱帯性の緑陰樹が多い。

○郷土イメージとトロピカルイメージ樹種のコラボレーション

那覇市の街路樹は、リュキュウマツやリュウキュウコクタン及びビロウ等の郷土イメージを放つ樹種と、ハウオウボク、トックリキワタ、オオバナソシンカ等の華やかで美しいトロピカルイメージの樹種があり、これらの適度なコラボレーションによる演出がある。

○混植の街路景観

那覇市の街路樹には、ビロウとシダレブラシノキ、ビロウとシマサルスベリのようにヤシと花木の街路やアカギ、ハウオウボク、ソウシジュ、サガリバナ等の一つの路線の中に複数樹種を混植した特徴的な景観もみることができる。

○街の基軸をなすモノレールルート

モノレールから眺める街並み景観は、那覇市のイメージを特徴づける大きな要素であるが、久茂地川と一体となった市道の街路樹は特に那覇市の景観づくりに効果的な役割を果たしている。



□郷土イメージの街路樹
(城岳小学校北側線)



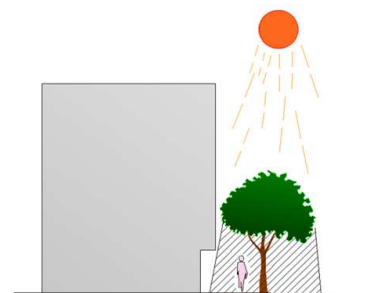
□郷土イメージの街路樹
(松川三原線)

(2)街路樹の効用

街路樹について、効用という観点からみると、緑陰、観賞、防風・防災等、多面的なものを有している。

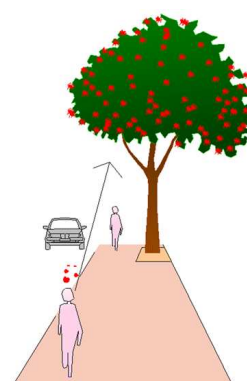
①緑陰

街路樹は、植栽する樹木により緑陰機能を発揮することができる。また、街路樹はアスファルト道路の路面を覆うことで反射熱をなくし、温度の上昇を防止する効果がある。酷暑の沖縄においては、歩道環境を向上させるという観点から涼しく快適に歩ける歩道環境を形成することは極めて重要なことである。



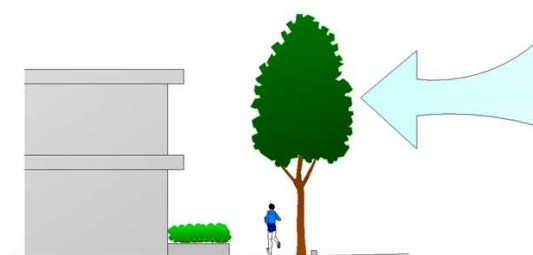
②観賞

街路樹は開花することで観賞効果を放つ。特に、沖縄においては美しい花を咲かせる熱帯花木が街路樹に多く利用されている。これらの花木が開花することで道路が美しく飾られ、観賞の対象となる。花木の咲く様は、地域住民のみならず観光客の目を楽しませ、それが観光面からも魅力的な要素になっている。



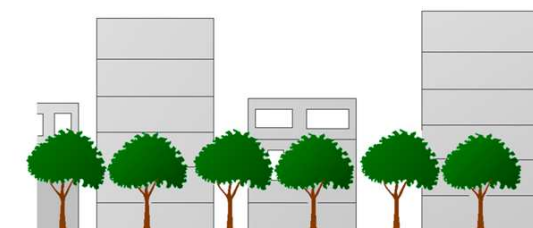
③防災・防風

街路樹は火災の延焼防止効果など防災機能を有している。島嶼県の沖縄では、台風や季節風等の風を防ぎ、潮風を止めるなどの防潮効果が重要視されるので、街路樹があることによりその周辺地域の家屋が穏やかな風環境となり安定した生活環境をもたらすことは極めて重要となる。また、街路樹は、災害時の火災が道路に反対側に延焼することを防止する効果もあり、災害防止としての機能を有効に生かすことが望ましい。



④景観向上

街路樹は、街並み景観の観点から重要なみどりとして映り、住宅やビル等のコンクリート建造物の固いイメージを軽減する。また、景観を阻害する建造物を視覚的に遮断するなどの効果を有する。



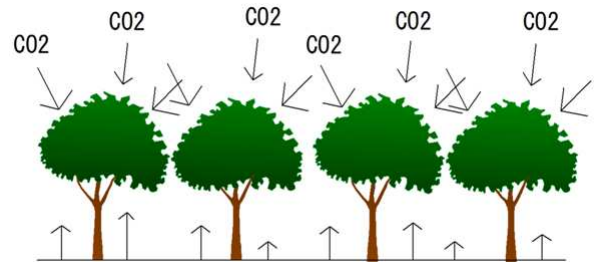
⑤視線誘導

街路樹は、連続したみどりのラインが車両の視線誘導効果をもたらし、交通の安全に資することができる。特に、高速で走る道路ほど、みどりのラインが視線誘導に効果的である。



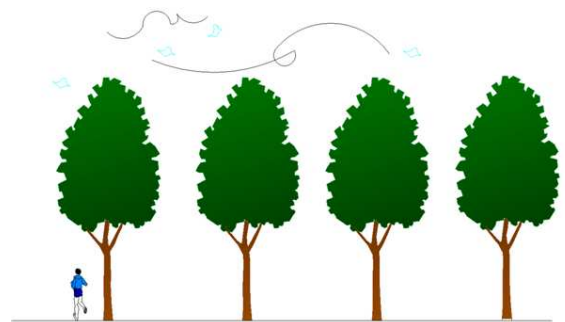
⑥自然環境形成

街路樹はみどりとして、CO₂を吸収し大気の浄化作用を有している。また、アスファルト面を陰で被うことで気温の上昇を抑え、都市のヒートアイランド防止に一役かっている。



⑦自然との共生

街路樹は、野生小動物の生息地となり、街路樹の実が小鳥の餌になるなど、街の中に野生小動物を呼び込み、身近に自然を感じさせてくれる。小鳥のさえずりが街中で聞けるということは、これだけ都市化した那覇市において今や貴重なことである。



(3)街路樹の管理方針

①街路樹の管理方針（目標）

那覇市が「亜熱帯庭園都市」、すなわちガーデンシティと呼ばれるにふさわしい「みどり豊かで色とりどりの花木が咲き誇る街路樹景観」を保持できることを目指し、次の管理方針を定める。

○歩道のみどりで満たす

樹木が茂ることで、みどりに満ちた歩道は緑陰のもとで夏の酷暑でも涼しく歩くことができる。豊かなみどりは街並み景観をも美しくしてくれる。街路樹は歩道幅員に制約があるなかに植栽されているため、可能な限り樹木を大きく育てることを心がける。

○樹木の個性を生かす

街路樹は庭木とは違い、極力、樹木を「自然樹形」で維持する。それが最も美しく感じられる姿だからである。傘状形や玉形などの形がある樹木に対し、なるべく自然樹形を生かした剪定を施し、樹木の個性が生きた街路樹景観を育て上げる。

○沿道と調和・一体化させる

街路樹の接道部は建物だけとは限らない。公園や学校等の公共施設があり、そこにも樹木が生えている場合があり、それら接道部の樹木との調和を図りながら管理する。場合によっては一体化させることで景観面からも調和する。

民有地の場合で、庭木の枝が伸びて歩道上に枝を広げても、それが歩行に支障にならない限り容認し、むしろ街路樹との一体化を図って維持する。

○剪定時期を厳守する

樹木は生き物であり、一年の季節の中で生長する時期や開花する時期がある。したがって、当然剪定を行う時期にも適期がある。特に花木の場合、剪定時期を誤ると開花しないこともある。このようなことから、剪定時期を厳守して管理にあたる。

